

リーディングDXスクール事業【実践事例】

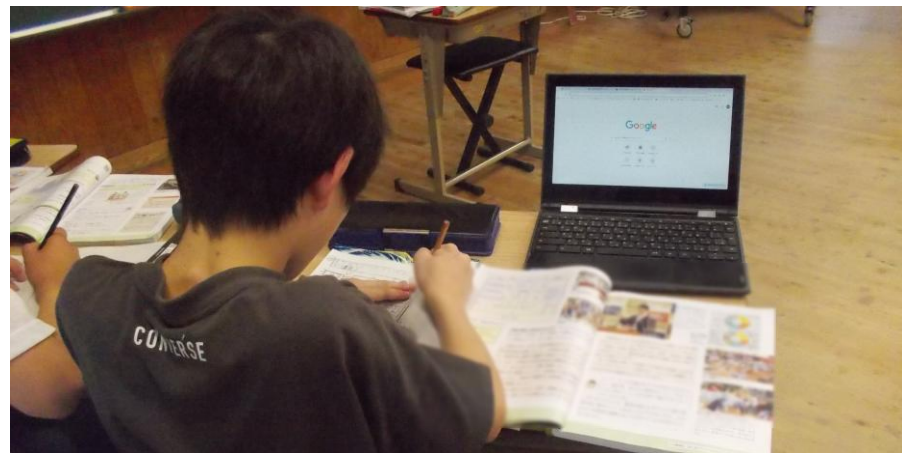
武雄市立若木小学校（佐賀県）【指定校】

【取組内容】 児童が自立して学習を進めるための情報活用能力の育成

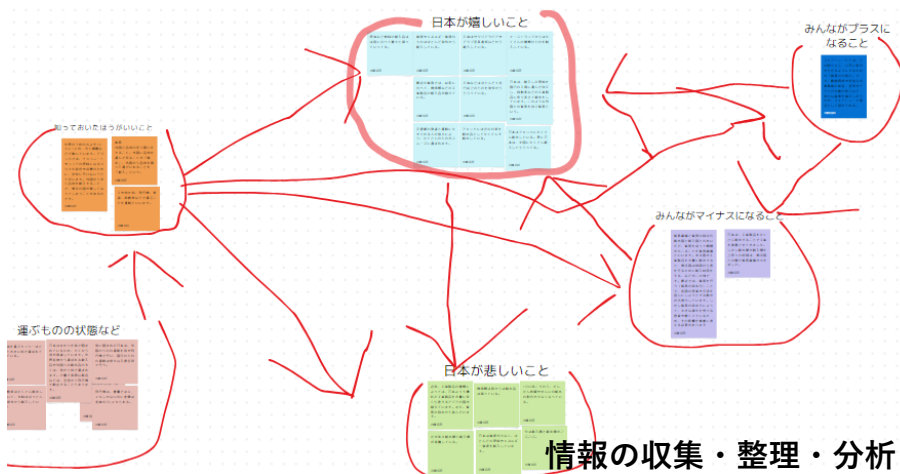
社会科や総合的な学習の時間において、教科書や各種パンフレット、インターネットなどの情報を得る手段を複数提示し、児童に手段を選択させる機会を多く設定した。高学年では、教科書とインターネットの情報を比較する場面を設定し、適切な情報収集の在り方、正確さを吟味することの重要性を理解することにつながった。



パンフレットの資料（3年生社会科）



複数の手段による情報収集（6年生社会科）



左図のように、集めた情報を付箋に記し、観点ごとに整理したり、関連する情報を繋げていたりしている。記入したものを自由に動かしたり、付箋の色を変えたりすることで、情報の整理には効果的である。また、ある情報（付箋）に対して、関連する情報を更に探し、考察する場面も以前より増えた。これらのファイルは学級内でクラウドを通じて共有されているため、他の児童が調べたことを、いつでも参考にできる。同じ課題であれば、集めた情報の妥当性の検討を行ったり、異なる課題であれば、広く情報に触れたりする機会になる。課題としては、児童の収集した情報の管理をより簡易化することや、時系列で個別の変遷が分かるようにすることで、学習履歴を児童も指導者もしやすい環境をつくることである。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

武雄市立若木小学校（佐賀県）【指定校】

【取組内容】 情報の収集における端末・クラウドを活用した教員の働き方改革に係る取組について

児童や保護者に対して、アンケートフォームを活用した各種情報の収集を行った。特に、保護者には、育友会に係る会議の出欠確認や意見の収集などを行ってきた。

また、教職員の研修時には、授業を参観した際の気付きなどを付箋に記入し、グループごとにスライドに貼り付けることで、情報を共有しながら話し合いを行うことにつながっている。



R6学校生活アンケート

B I U ㊄ ㊅

4月からこれまでにふりがえって、あてはまるところに○をつけてください。

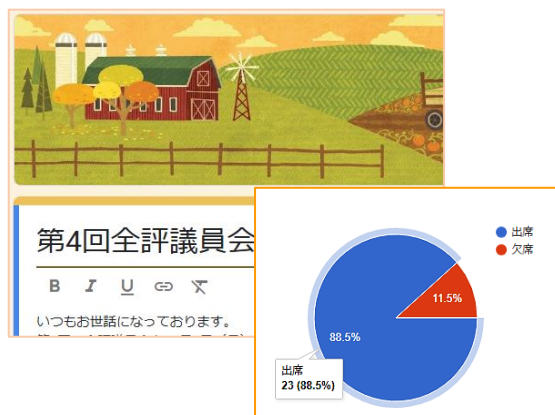
学年*

1. 1年生

2. 2年生

3. 3年生

児童対象のアンケート



保護者への出欠確認

柱	単元選択	振り返りの仕組み
単元ごと	観光客向けという目的意識をさせていることは、非常に良い。	地域を生かした教材としては、よいと思う。
	自分の興味に合わせて学習できたり、人と学び合うことで新しい発見があり、研究に合った単元だと思う。	郷土である武雄市や若木町の良さや気候といった子どもたちにとって非常に魅力的な内容であった。
課題・	この単元での調べた点を校対したほうが友達と比べやすいのではなかつたかと思いました。	単元を設定するにあたって、調べた教材を校対したほうが良かったように思いました。
		めあての確認は？振り返りに関わってくるはず。
		目標との関連がにくかった。さら、ガイドブックで振り返るべき。
		めあてに結びつくふり
		子どもたちの様子

授業研究会での情報共有

- ・フォームの活用によって、紙の削減だけでなく、配付や集計（数値、グラフ化）を簡単に行うことができ、業務の軽減につながっている。作成したフォームの回答先リンクを別の保護者向けメールサービスにて知らせることで、保護者もスマートフォンから回答することができ回収の時間削減、回答率の向上にもつながっている。
- ・保護者の各種行事への出欠確認についても、名簿でチェックする必要はなく、回答結果をGoogle スプレッドシートに出力することで一覧として確認できるなど時間短縮と職員間での情報共有が簡易になった。
- ・校内研修で活用しているGoogle スライドは、入力を各自のタイミングで行うことができ、グループ内で情報を共有するだけでなく、他グループの意見も一目で確認できるよさがある。
- ・最初に様式やフォームを作る段階で時間を要するため、役割分担などしながら学校に必要なものを準備し、継続的に利用することで更なる効率化につなげたい。